

市史編さん室 事務局活動報告

(平成二五年一月～二月)

I 古文書等調査報告

一 古文書等調査の概況

市史編さん室では、各専門部会活動の資料とするため、市内にある古文書等の歴史史料について、目録作成・写真撮影等の基礎的な調査を行っている。

平成二五年一月から二月の間に、一五件の文書群(総点数一万一二五点)について調査を終えた(一部を除き、次項にそれぞれの文書群についての解説を付した)。これにより、平成一九年度より約一二三件(総点数四万七〇〇〇点超)の調査を終えたこととなる。なお、平成二五年一二月末日段階で、二四件(総点数四万二〇〇〇点超)の史料群を借用しており、現在調査を進めている。他に、熊谷市で所蔵している一二件(総点数一万九〇〇〇点超)や市外の史料保存機関等で所蔵している古文書等につい

ても、随時調査を行っていく予定である。

(栗原)

二 調査終了文書の紹介

新堀中村定弘家文書 五〇七七点

熊谷市史の民俗調査員である所蔵者より調査許可をいただき、平成二〇年一月九日、平成二一年一〇月一四日、平成二二年六月三日、平成二三年七月五日、平成二四年七月一日、九月二四日、一〇月五日の七回にわたり借用・返却・現地調査等を行ってきた近世・近代文書である。中村家は江戸時代に組頭、明治になると新堀村准副戸長、副戸長、戸長、高柳村連合戸長、玉井村の村会議員、岡村区長、農地委員などを歴任して、幕末には新徴組に参加した念流中村定右衛門正行を輩出した家である。文書群の内訳

は近世一〇四八点、近代以降の文書四〇一八点であり、近代以降の文書が大半を占める。また、文書群には久下村文書が混入しているのも特徴であり、一三二二点(推定)確認できる。文書群の初見は、宝永六年「武蔵国播磨郡忍領中奈良村御仕置五人組長(控)」である。文書群最大の特徴は新徴組に関する史料が豊富にある点である。警衛・名簿・規則・明細・組合員との交流・御用留など多岐にわたる。定右衛門は浪士組の剣術教授方を勤め、文久三年(一八六三)一〇月七日からは三三番組の小頭を勤める。新徴組では青山村(現熊谷市青山)根岸友山との交流が書状から確認できる。剣術関係では山岡鉄舟(鉄太郎)の書状、弓術・念流の秘伝書、中村定右衛門正行の門人英名録などが散見する。新堀村に関するものとしては、文政五年の村明細帳を明治九年一二月に写したものである。土地は嘉永四年「新堀村割地覚」に文禄三年(一五九四)から寛政一一年(一七九九)までの縄入覚えが記されており、近世初期の新堀村の状況を示す数少ない史料といえる。明治になると、明治六年「地租改正耆筆限歩数測量簿」(二冊)があり、地引簿に加えて図面(測量)が入っている。高柳村連合戸長役場では、新堀村の地位等級表、高柳村・久保島村の地

租改正地価表などが散見する。寺社関係は明治五年「社寺明細書上帳」がある。文化では挿花関係がある。定右衛門は峯月齋中一定と号して、正風遠州流で挿花を嗜み、秘伝書や会筵の史料が残存する。軍事では、中村定一が従軍した昭和六年一二月、昭和七年一月の「在營軍隊日誌」が注目される。

一方、久下村文書は久下村戸長嶋村藤次郎(中嶋屋)に関連した史料がまとまっている。嶋村藤次郎は久下で中嶋屋として御小休所を営んでいた(文政一〇年(一八二七)「諸園道中商人鑑」)。中村家との繋がりは、定右衛門正行の次男正一が嶋村家へ養嗣子として加籍して親戚関係にあたる。親戚の嶋村家から久下村文書が中村家へ移管され現在まで保存されてきたと思われるが、移管経緯は不明である。久下村役場文書が今日までほとんど残されていない中、本文書群は久下周辺地域の近代行政を語る上で貴重なものといえる。久下村文書も新堀村同様に「寺院書上帳」や地位等級表が残存する。租税では明治五年「壬申畑方税納取立帳」、明治七年「村費明細記帳」をはじめ村政を紐解く基礎的な史料が豊富にある。本文書群は明治期の新堀村、久下村に関する史料を含むだけでなく幕末新

徴組関係を含む、大変貴重なものとして注目されよう。調査が終了して、平成二五年三月六日に文書を返却した。

(水品)

玉井個人所蔵文書 一二点

平成二四年三月近世専門部会古文書所在確認調査で訪問、同年七月一二日に借用した近代文書である。所蔵者家は幕末頃に初代が玉井に居住し酒造業を始め、三代目の時に酒造業から米穀商に変わった商家である。初見は明治三五年の店勘定覚帳である。文書群の中には御通帳、道路工事控、決算簿、店勘定覚帳、収支決算帳など米穀商売で使用した明治後期から昭和戦前までの帳簿類がある。また、昭和一八年「玉井神社祭典二付覚」は玉井神社のお歩射の当番を所蔵者が担い、その際の祭礼順序等を書き付けたものである。玉井地区の近代米穀商関係及び、祭礼の一端を示す貴重な史料群といえよう。調査が終了して、平成二五年三月六日に文書を返却した。

(水品)

本石 志村忠夫家文書(三次借用分) 八一点

平成二四年五月に所蔵者より連絡をいただき、三次借用した近世・近代文書である。志村家文書は過去に二度借用して、今回で三度目の借用になる(『熊谷市史研究』創刊号及び第四号の調査終了文書参照)。文書群の総数は一二〇点であり、近代文書が大半を占める。三次借用分の中で重要な文書は、慶応三年(一八六七)から明治二年(一八六九)の立庵日記であろう。幕末期の町医者日記として注目されよう。他には、大正、昭和戦前の日記が数冊残存する。また、立庵三男の徳行が軍医を勤めたことから、陸軍将校からの感謝状や書簡類がまとまっている。幕末から近代にかけての町医者の動向がうかがえる文書群として注目されよう。調査が終了して、平成二五年一〇月二日に文書を返却した。

(水品)

妻沼 荒井映吉家文書(追加調査分) 二七点

平成二二年一二月、平成二三年一〇月、借用した近世・近代文書である。荒井家文書については、すでに寄贈文書分(『熊谷市史研究』第三号参照)が妻沼展示館に保存されている。調査した文書は、天正六年(一五七八)の覚、元和元年(一六一五)・貞享元年(一六八四)の申渡之事で、いずれも一七

世紀のものであり、荒井家の由緒を示す貴重な史料と思われる。他には、荒井家系図、戸口、土地に関するものがある。調査が終了して、平成二三年一〇月一三日に荒井家系図、平成二五年一〇月二四日に上記申渡之事三点と木箱を返却した。残りの文書は、寄贈分同様に、妻沼展示館にて保管している。

(水品)

上中条 観音寺文書 三点

平成二五年一二月に観音寺仏像調査と併行して現地調査した近代文書である。三点は、いずれも大正七年(一九一八)の水越正観世音開扉寄附帳である。三点は堅帳形態で甲乙丙と順番があり、大字ごとに寄附者と寄附金が列挙されている。寄附者は上中条だけでなく、今井、箱田、西城、新堀、上奈良、妻沼、東別府などの現熊谷市域のみならず、酒巻(現行田市)、赤岩(現群馬県)など広範囲に及ぶ。本文書群は、六〇年に一度の観音堂御開帳の歴史を知る史料として貴重であろう。

(水品)

東別府 田村家文書 一九一八点

以前市に寄贈されて市立熊谷図書館にて保管されてき

たが、市史編さん室の開室後に移管された文書群である。近現代文書が半数を占めるが、近世文書も六〇〇点近く含まれている。田村家は、東別府村(旗本内藤氏知行一三二石余)の名主役を少なくとも文化一二年(一八一五)から勤めた家で、明治期には副戸長・衛生委員・学務委員などを勤めた。明治三年(一九〇〇)には、繁三郎が別府村長となっている。持高は元治元年(一八六四)に一〇石余(反別一町二反余)で、米穀生産に加え、明治期以降は金融業なども営んでいた。文書の内容は、近世の支配では、旗本内藤氏の「遠類書」や「明細書」があり、また旗本勝手賄関係文書も多い。近代文書には、明治五年以降の戸長役場における役務日記が五冊遺されており、引継文書などもあつて貴重である。町村制における別府村会に関する文書も確認できる。村政では嘉永三年(一八五〇)に年貢の横領・滞納などの出入に関する文書があり、村況では村明細帳が寛政六年(一七九四)・文化一〇年・元治二年の三冊遺されている。交通では、文久元年(一八六一)の和宮下向に関する御用留と出役日記があり、具体的な動きを知ることができる。農業経営としては、文化七年(嘉永七年(一八五四))の「穀物売渡覚帳」、明治三一年(大正一三

年(一九二四)の「穀物等売上帳」という米穀などの販売帳簿がある程度まとまって確認できる。教育では、学務委員を勤めていたこともあり、高等西別府学校の設置願や学資金・学費など明治期の学校関係史料は多数遺されている。また、埼玉学生誘掖会関係文書などもある。講としては、文久二年の伊勢参宮道中記などの詳細な記録があり、また江戸時代のものと思われる富士講食行身祿派の書留もある。典籍では、江戸の和書として『農業全書』や『地方落穂集』などの農書が豊富に遺されている。本文書群は、調査を終えた後も市史編さん室にて保管している。

(滝沢)

上須戸村文書 六二二点

平成二三年一〇月、同二四年一二月の二回にわたって古書店より購入した近世・近代文書である。調査の結果、出所が須藤家であることを確認した。初見は、正保三年(一六四六)「成年上須戸村御年貢可納割付之事」である。近世文書が大半を占めるが、近現代文書も三〇余点含まれている。文書群の内容は、年貢割付や皆済目録などの貢租に関する文書の多いことが特徴であろう。年貢割付は正保三年

(一六四六)文化四年(一八〇七)の七四点、皆済目録は元禄一六年(一七〇三)寛政一一年(一七九九)の三四点などがある。差出から幕領↓忍藩領↓幕領↓旗本内藤氏知行という支配の変遷をうかがうことができる。また旗本勝手賄などの文書をあわせて確認することができる。村政・村況では、安政二年(一八五五)の「出府中手控」が貴重である。また関東取締出役関係文書もあり、上須戸村・江波村・善ヶ島村の農間渡世などの書上が遺されている。水利・治水では、享保二〇年(一七三五)の用水差留出入、宝暦一四年(一七六四)の堰定杭出入、天明二年(一七八二)の四方寺堤出入、文政九年(一八二六)の仁手村備前堀掘下げ徒党一件など度々水論のあったことがわかる。治水では、元禄一〇年(一六九七)の仁手用水御普請組合の書付があり、貴重であろう。本文書群は、調査を終えた後も市史編さん室にて保管している。

(滝沢)

間々田 椎橋繁作家文書 五五〇点

民俗基礎調査員 青木福永氏のご紹介で、間々田稻荷神社の文書調査をすることとなり、平成二二年三月一三日に神社へうかがったところ、同席されていた椎橋氏も家

文書を所有されているとのことで、その足でおうかがいして、木箱一つと額装された文書を借用した。額装されたものは八月五日に返却し、その後は平成二十二年二月、

五月、同二十三年五月、同二十四年四月と四回にわたって返却と新たな文書の借用を繰り返し、最終的には同二五年五月二〇日に文書を返却して調査を終了した。文書の内容を紹介しよう。初見は寛政三年（一七九一）「質物二入置畑証文事」で、全体的に近代文書が多くを占めるが、近世文書では質地・奉公人関係文書などの多いことが特徴である。椎橋家は、少なくとも近世後期には間々田村（旗本数原氏知行分）の名主・組頭役を代々勤めた。支配としては、旗本数原氏からの達書などが多く遣され、土地では売買に関する文書があり、村内の沼に関する史料もあつて興味深い。村政・村況では、幕末期に椎橋家が間々田村の名主とともに西別府村（現、熊谷市西別府）の名主役を兼帯していることが確認できる。同じ旗本知行であったためであろう。また文化一四年（八一七）に村内で起こった嘉兵衛不法出入一件についても詳細を知ることができる。椎橋家は、農業生産を中心とした地主経営を展開しつつも、明治一八年（一八八五）になると藍商の起業を届け出て、藍

玉の売買を行っていたことが、断片的ながら確認できる。

（栗原）

男沼 高柳初衛家文書 二六一点

平成二十三年二月に行われた近世専門部会の古文書所在確認調査で所蔵を確認し、四月一日に借用した近世・近代文書である。初見は貞享元年（一六八四）の「武蔵国幡羅郡男沼村田畑検地水帳」（写・三冊）と「貞享元甲子御盛付控」で、全体的には近世後期の文書がほとんどで、近代以降の文書はきわめて少ないことが特徴だろう。文書の内容は、支配として幕末期から明治初年にかけて御用留帳が散見でき、貴重であろう。旗本大久保氏の「先祖書」をはじめ、勝手賄関係文書などもある。改革組合村関係では、幕末期における農間渡世や職人稼ぎの調査書があり、男沼村の村況の一端を知ることができる。また災害関係として、旗本領主へ宛てた安政地震の被害報告書があり、注目しておきたい。貢租では、幕末期の年貢皆済目録が遺されており、村内の取立て帳簿も確認できる。村況としては、幕末期の村議定や絵図三点があり、文政八年（一八二五）の権兵衛相続歎願一件の史料がまとまっている。また

明治元年（一八六八）の神仏判然令をめぐる妻沼聖天宮の議定書も重要だろう。戸口では、宗門送り状が多く遺されており、男沼村と他村との人の動向をうかがうことができる。用水としては、江原村堤の裁許や、仁手堰・善ヶ島堤・備前堀などいくつかの文書が確認できる。文化としては、句集や、浅見徳治氏の作成した男沼村郷土誌に関する資料が貴重であろう。調査を終了した後、平成二五年五月二〇日に返却した。なお、その後にも文書が発見され、所蔵者から追加調査の依頼を受けたが、その文書も平成二六年二月二十五日に返却した。

（栗原）

平戸 藤井八重子家文書 二二三一点

立正大学古文書研究会による調査の成果にもとづいて、平成二二年二月一八日に借用した近世・近代文書である。同古文書研究会では、『武蔵国埼玉郡平戸村 藤井健一家所蔵文書目録』（二〇〇〇年）をはじめ、『武蔵国埼玉郡平戸村 藤井健一家所蔵文書―史料紹介―富家古事記并雑誌―』（『立正大学地域研究センター年報』二二号、一九九九年）、『武蔵国埼玉郡平戸村 藤井健一家所蔵文書史料

集―慶長期から享保期―』（二〇〇一年）などの藤井家に関する研究成果を上げている。今回市史編さん室では、同古文書研究会の目録刊行から一〇年を経過した現在の文書確認調査を行い、目録通り全点の文書が大切に保存されてきたことを確認した。保存措置として、中性紙箱・封筒へ詰め替え、デジタルカメラにて写真撮影を行った。

ここで、同古文書研究会の成果などにもとづきながら、本文書群を簡単に紹介しておきたい。初見は慶長一三年（一六〇八）『武州崎西之郡忍領平戸村御検地帳』（五冊）で、全体の約四割を近世文書が占め、年代の古い文書もあり、点数としては貢租、村政・村況、経営、書籍などが多い。藤井家は、先祖の雅楽助が近世初期に肥前国松浦郡平戸郷（現、長崎県）からやってきたという言い伝えがあり、雅楽助は慶長一三年の検地で案内者を勤め、村内の源宗寺・他国明神社の成立に関わった。藤井家は、代々平戸村の名主役を勤めたが、天保二年（一八三一）に他家へ名主役を譲り、その後は百姓代などを勤めている。田畑の所持は、多いときで二八町二反九畝二四歩（享保六年）という規模で米穀生産を行っていた。また近世後期には、水車の経営をはじめ、昭和三〇年（一九五五）頃までは、製麵所を経営

していた。文書の内容としては、年貢について、番城期、相給期（幕領・旗本杉浦氏・近藤氏・永田氏・松平氏）、忍藩期という変遷を追うことができて興味深い。村政・村況では、承応二年（一六五三）の地境争論や明治五年（一八七二）の村方騒動などいくつかの一件を具体的にみる事ができる。また、源宗寺は「平戸の大ほとけ」で著名であるが、本文書群には正徳三年（一七一三）の「大仏奉加帳」が遺されており貴重である。紙面の都合上、これ以上の紹介は差し控えるが、詳細は同古文書研究会の成果を参照されたい。確認調査を終了した後、平成二五年七月一日に返却した。

（栗原）

東別府 富田喜一家文書 二二九点

郷土「別府村史」研究会が平成二四年五月一〇日に市史編さん室を訪問した際、富田喜一氏も同席され、所蔵文書を数点ほどお持ちいただいた。ご自宅には他にも古文書が少々あるとお話だったため、五月一七日に富田氏宅へおうかがいし、編さん室に来室された時にお預かりした分とともに、ご自宅に保管されていたものも合わせて

借用した。初見は享保九年（一七二四）「田質物二入置申手形之事」で、江戸後期から明治・大正期の文書が中心である。全体的に質地証文や地券など土地や金融に関する文書が多い。富田家は地主であったが、村役人ではなかったという。東別府には、鳥や鷹にまつわる地名や呼称が多く遺されている。文書の内容は、土地として明和八年（一七七二）「田畑之覚帳」があり、富田家の土地所持の状況が確認である。また享保九年以降、幕末期から明治・大正期に至るまでの土地金融証文が多く遺されており、本文書群の中心をなす史料である。それらを見ると、富田家の歴代当主と考えられる名前がわかり、質地金融の視点から同家の地主経営の浮き沈みの一端を追うことができるだろう。また信仰では、天保一〇年（一八三九）「伊勢講発記名面并二書入証文控」が講についてまとめられた史料で興味深い。手習いに関する文書も多い。調査を終了した後、平成二六年二月二七日に返却した。

（栗原）

今井井桁家文書 六五点

近世専門部会の古文書所在確認調査の成果にもとづい

て、平成二五年三月一日に借用した近世・近代文書である。初見は文化九年(一八一二)「礼記四」などで、全体的に幕末から明治期にかけての書物が多い。近世では、文久三年(一八六三)「引入免許」がある。これは、井桁利三郎が一貫青山田貞六郎から得た起倒流柔術の免状である。近代では、明治三一年(一八九八)九月七日に起こった水害に関する文書がある。今井村では、食料の救助、種穀料の給与、地租補助の貸与、地方税の免除を願うための調査費の出勤を村内で取り決めて一二二名が連印したものである。この歎願を受けたと考えられる種穀料渡金に関する文書もある。同年には「流行病予防法約定」という、今井村内で取り決めた約定書が遺されている。また、明治二〇年「諸事トシコミ帳」や明治二三年「諸事控帳」という記録(留帳)もある。書写物が多い点も特徴であろう。明治一四年「作文集合記」や「西野文太郎ノ書簡」などが興味深い史料である。家関係では、慶応二年(一八六六)に生まれた井桁喜平の履歴をまとめた文書があり、明治一七年の陸軍入隊から同三〇年までに至る詳細な従軍の過程が整理されており貴重である。明治二七年には、日清戦争へ従軍している。また、明治三〇年「家事雑誌録」は金銭出納帳で、い

ろいろな生活物資を購入している様子をうかがうことができ、柿沼の柿島屋からの買い物が多いことがわかる。さらに、書物が多い点も特徴である。写本では、井桁瀬兵衛が安政五年(一八五八)に写した「当宝作」が興味深い。刊本は、『啓蒙日本外史』など歴史書が多い傾向にあるように思われる。これらの書物には、購入者や購入代金などが書き入れられているものが多く、大変貴重であろう。調査を終了した後、平成二六年一月二三日に返却した。

(栗原)

熊谷市史編さん室収集文書 一〇点

平成二五年三月・五月・十一月に古書店より購入した文書である。いくつかの出所からなるが、明確にはならないため、前年度と同様に一括して「熊谷市史編さん室収集文書」として整理した。全九件(二〇点)である。まとめごとに内容を示しておこう。

①大里郡和田村(現、熊谷市楊井)の「御仕置五人組帳」がある。寛保三年(一七四三)に作成した五人組帳であるが、その後明和二年(一七六五)に簡条を追加して和田村・原新田(現、熊谷市楊井)の村役人・百姓が連名し、文化五

年(一八〇八)には比企郡土塩村(現、滑川町)の村役人・百姓が連名しているという興味深い史料である。なお、本文書には表紙と二丁目と裏表紙見返しに「金澤藏」の蔵書朱印が押されており、金沢甚衛氏の収集文書であつたことがわかる。

②熊谷宿北組合大惣代の申渡しがある。関東取締出役からの仰せ渡しに対して、改革組合村の大小惣代・寄場役人が相談して出したもので、内容は、質物・質帳・質屋に関するものである。(栗原)

③正風遠州流挿花翁並ニ雅号翁披露会の刷物。明治三五年五月四日。四世教貫齋社中五三名をはじめ、補助、会主など合計一三八名の名が列記されている。大里郡出身は一五四名(熊谷三七名)となり、同郡を中心に構成されている。四世教貫齋月一桂は平塚新田の堀彦十郎(宗補)で明治初期に組頭を勤めた人物である(立正大学古文書研究会・立正大学大学院竹内誠ゼミ編『武蔵国大里郡平塚新田山下一夫家所蔵文書目録』)。本資料は平塚新田山下家文書の一部と思われる(旧史料番号はN・1・13)。山下家一二代教輔は松喬齋一友と号して、本資料の披露会にも補助の一人として名を連ねている。

④官許療疽之藥(広告)。二枚。明治九年一月一日。療疽(ひょうそ)とは手足の指の末節の急性化膿性炎症のことである。一枚目は購入方法の広告で、内容は代金を送送すれば、郵便などで薬を運送するとある。二枚目は薬の効能を記した広告で、定価は一貼金六錢とある。この薬は官許を得て売捌くとある。製造所は下奈良村吉田鍊五郎で、取次売弘所には大里郡石原村西田作次郎、熊谷仲町田島玉三などが確認できる。吉田鍊五郎は下奈良村戸長を勤めた人物である。

⑤武州熊谷仲町池田屋代藏の広告。年次不詳。「埼玉県営業便覧」に記載なし。広告上段に「現金安価」と屋号がある。広告によると、池田屋で販売していたものは足袋、股引、手甲、風呂敷などの品物を販売していた。足袋には御詠向(おあつらえむき)とあり、受注生産であつたと思われる。

⑥諸紙類販売、⑦現金かけねなし紙類品々安売。⑥⑦は、共に熊谷本町茂木重藏の広告である。明治三五年の「埼玉県営業便覧」によると、本町壹丁目に紙商茂木重藏とある。⑥⑦は共通して新形手掛、紀州蠟燭、筆墨硯、御扇子などの品々が記されている販売広告である。なお、茂木

重蔵は富士山五合目の山林中で発見された「登山三十三度大願成就」の石碑にその名が刻まれており、富士山信仰への関わりが指摘されている(山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第二八五集『山梨県山岳信仰遺跡詳細分布調査報告書』)。

⑧帽子改造広告。年次不詳(明治三二年七月の輸入関税改正以降)。「埼玉県営業便覧」に記載なし。破損した古帽子を廃物利用して改造するとある。廃物利用の帽子は、高山形、中山形などがあり、東京浅草区上平右工門町(現東京都台東区)山本商会組の出張所として熊谷泉町時田時三郎の名が確認できる。

⑨水音盟社第八回月次即吟句集の開催通知。年次不詳。水音盟社は明治一九年(一八八六)に結成され、指導者に内田朴山、内海良大らがいた俳句結社である(『熊谷市史』後編、昭和三九年)。案内文は印字されており、人名・日付欄には墨書が足されている。内容は中爪可及先生花評で、一〇月三日に切、同一五日に開き、秀逸作品は特別印刷物にするので沢山の投詠を促している。玉句届所は熊谷仲町北辰堂印舗、同本町三丁目万屋薬店とあり、大集会所は熊谷本町三丁目卯の木薬店とある。(水品)

飯塚鈴木進氏収集文書 155頁参照

横浜市山本郁夫氏寄贈資料 158頁参照

最後に、古文書の調査をさせていただきました所蔵者の皆様に厚くお礼申し上げます。

(文責 栗原健一・水品洋介・滝沢きよ子)

II 埼玉県行政文書調査報告

平成二四年度より埼玉県立文書館にある国重要文化財に指定された埼玉県行政文書の中から、熊谷に関係する史料の調査を開始している。平成二五年一月から同一二月までに、協力員と事務局で計七回調査を行った。平成二四年一二月までの調査で明治期の主要文書収集は概ね終了したため、大正・昭和戦前期の埼玉県行政文書撮影作業に着手した。平成二五年一二月末現在で、約二一三〇点

の撮影を終え、総カット数約二五〇〇〇に及んでいる。大正・昭和戦前期の行政文書は、大半が原本であるため、撮影に時間を要している。引き続き来年度も継続調査を予定している。

(文責 水品洋介)

Ⅲ 新聞記事調査報告

平成二四年度より埼玉県で発行された、新聞の記事調査を行つている。基本方針は埼玉新聞を中心に、四大新聞の地方版から熊谷に関する記事を収集することである。埼玉新聞に関しては、県立浦和図書館、県立熊谷図書館で昭和一八年から記事見出し検索が可能になった。そのため、昭和一八年～一九年までの見出しを事前調査で利用して作業の効率化を図った。調査した見出しを各委員に提出して、担当分野で必要な記事のみ複写・撮影して収集を開始した。一二月現在で委員より要望のあった妻沼に関する記事は概ね収集が完了した。戦後の新聞記事について

はある程度の目途がたつたため、埼玉県立文書館の複製新聞から近代の記事見出し、複写収集する作業を開始した。平成二五年一月から一二月までに、事務局同行で計一八回作業を行つた。また、協力員のみでも作業を進めている。調査した新聞は、八州新報など一三紙の調査を終了、国民新聞、東京日日新聞(埼玉版)など四紙は調査中である。一二月末現在で総数一四六一〇点(広告記事含む)の新聞記事見出しを調査した。来年度も継続調査を予定している。

(文責 水品洋介)

Ⅳ 小中学校調査報告

平成二五年度より熊谷市内にある、小中学校所蔵の歴史資料等の調査を開始した。調査は、近代専門部会、現代専門部会の教育分野担当の高橋和弘、高橋信之専門調査員の二名と事務局とで行つた。平成二五年一二月末までに三回、計一〇校の調査を終了した。調査方法は、各小中学校に所蔵されている明治以降の学校沿革誌を中心に諸

資料を実見して所在を確認し、重要資料については写真撮影を行った。今後も市内の全小中学校を対象に調査を継続していく予定である。

以下、調査順に各小中学校の簡単な現在までの経緯にふれた後、所蔵文書を紹介していく。

妻沼小学校

明治六年（一八七三）六月一日開校。明治二二年妻沼尋常小学校、大正一〇年（一九二二）妻沼尋常高等小学校、昭和一六年（一九四一）妻沼国民学校、昭和二二年妻沼小学校と改称して現在に至る。

主な所蔵文書は、学校沿革誌、旧教員履歴編冊、発令通知綴、転入学証明書・在学証明貼布綴、親展書類綴、職員調査表、入退学簿、卒業生名簿、卒業証書授与台帳、学校要覧などである。その他にも、写真、教科書、看板、瓦、土器、民具類があり、追加調査を予定している。

長井小学校

明治一九年（一八八六）江波小学校として開校、明治四一年長井尋常小学校、昭和一六年（一九四一）長井国民学

校、昭和二二年に長井小学校と改称して現在に至る。

主な所蔵文書は、学校沿革誌、長井村人物誌、長井村教育史、齋藤実盛塚二閔スル綴、大礼記念録、学校要覧などであり、長井村に関連する資料があり貴重である。なお、土器については、追加調査を予定している。

秦小学校

明治七年（一八七四）四月七日、葛和田小学校として開校。明治四三年秦尋常小学校、大正九年（一九二〇）秦尋常高等小学校、昭和一六年（一九四一）秦国民学校、昭和二二年秦小学校と改称して現在に至る。

主な所蔵文書は、学校沿革誌、小学校・公民学校職員調査表、幼稚園沿革誌、旧職員履歴書、出席簿、卒業名簿などである。他には、旗羅郡葛和田村連合全図や葛和田河岸・宿場及俵瀬家並図（共にコピー）を調査した。

男沼小学校

明治八年（一八七五）開校。明治一九年政肇学校、明治二五年男沼尋常小学校、昭和一六年（一九四一）男沼国民学校、昭和二二年男沼小学校と改称して現在に至る。

主な所蔵文書は、学校沿革誌、男沼村教育史、男沼村人物誌、視察簿などがあり、男沼村に関連する資料があり貴重である。

また、男沼小学校には小島小学校の永年保存文書が移管されている。小島小学校は明治六年一月開校。主な文書は学校沿革誌、本校区域教育史、御大典記念人物誌などがある。

太田小学校

明治六年（一八七三）太田学校として開校。明治一七年太田修徳尋常小学校、明治四一年太田尋常小学校、明治四二年太田尋常高等小学校、昭和一六年（一九四一）太田国民学校、昭和二二年太田小学校と改称して現在に至る。

主な所蔵文書は、学校沿革誌、太田村教育史、太田村地番反別入図、太田村小学校創立百年祭のしおり、転任・退職職員履歴綴、寄附台帳、旧職員履歴書などである。写真類も多数あり、特に昭和一四年の出征家族慰安会記念写真（大日本国防婦人会太田村分会）が貴重であろう。

妻沼東中学校

昭和二二年（一九四七）妻沼中学校、長井中学校、秦中学校が設立。昭和三七年、長井中学校、秦中学校を統合して妻沼東中学校として発足。

主な所蔵文書は、学校沿革誌、備品台帳、卒業証書授与台帳などがある。

妻沼東中学校には、秦中学校、長井中学校の文書が保存されている。秦中学校文書は、学校沿革誌、中学校統合文書綴、卒業証書授与台帳がある。長井中学校文書は学校沿革誌、機械器具台帳がある。

妻沼西中学校

妻沼中学校、太田中学校が統合して、昭和三九年（一九四四）開校。昭和四〇年男沼中学校を統合。

主な所蔵文書は、学校沿革誌、各種証明書発行簿、発送文書綴、職員出勤簿などがある。

妻沼西中学校には、統合前の妻沼中学校、太田中学校、男沼中学校の文書及び、太我井青年学校、妻沼実修女学校、男沼第二国民学校、小島中学校に関する文書も保存されていた。妻沼中学校文書は、例規綴、消防法関係書類、妻沼中学校工事日誌、発令関係書類綴、当宿直日誌などであ

る。男沼中学校文書は、学校沿革誌、視察簿、辞令綴、学校調査諸綴などである。太田中学校文書は、学校沿革誌、職員調査表綴、例規綴、学校要覧綴などであった。太我井青年学校文書は、学校沿革誌、学校一覽表綴、公文書綴、進達文書綴や日誌などであった。妻沼実修女学校文書は、昭和九～二〇年の学校日記(一二冊)、個性調査簿、職員出勤簿、身体検査表などがある。男沼第二国民学校と小島中学校の学校沿革誌も保存されており、旧校関連資料がまとまっている。

成田小学校

明治七(一八七四)年、上之村小学校として開校。明治二二年成田学校、明治二五年成田尋常小学校、昭和一六年(一九四二)成田国民学校、昭和二二年成田小学校と改称して現在に至る。

主な所蔵文書は、沿革誌、旧職員履歴書綴、寄附者芳名録、校舎校地配置図、学校要覧綴、卒業記念帖などがあった。また、校長先生より龍淵寺に学童疎開した京華国民学校関係資料の御教示をしていただく。なお、大正三年に書写された成田系図は、原本が欠損しており、写本も多くな

いことから貴重である。

熊谷東小学校

明治六年(一八七三)四月三〇日、正則小学熊谷学校として開校。明治二二年熊谷小学校、明治二〇年に尋常小学校と高等小学校に分かれ、熊谷小学校と大里高等小学校になる。大里高等小学校は明治四一年熊谷高等小学校に改称。明治四三年に熊谷男子尋常高等小学校、昭和一〇年(一九三五)熊谷東尋常高等小学校、昭和一六年熊谷東国民学校、昭和二二年熊谷東小学校と改称して現在に至る。主な所蔵文書は、学校沿革誌、小学校史草案、明治天皇崩御関係書類、諸儀式記録、熊谷火災関係記録、監察官視察簿、本校教育方針、校報、PTAだより、熊谷町誌草稿、教員辞令通牒綴などがあった。

熊谷東中学校

昭和二二年(一九四七)桜田中学校として開校。昭和三六年熊谷東中学校と改称して現在に至る。

主な所蔵文書は、学校沿革誌、学校一覽表綴、校舎移転関係書、郷土の面影、校舎改築関係資料などがあり、開校当初の桜田中学校関係資料も含まれている。

(文責 水品洋介)

V 行政文書の整理・保存

熊谷市文書管理規程に基づき、保存期限満了の行政文書が一括廃棄される際に、市史編さん室では歴史資料として重要な文書を収集保存している。

本年度は平成二五年三月末で保存年限満了となる文書から、保存箱数で一三四箱分の行政文書を収集した。行政文書の保存年限は五年、一〇年のもので、保存箱の各庁舎より収集した分は、本庁第二文書庫分二四箱、佐谷田文書庫分九六箱、妻沼行政センター分五箱、江南行政センター分四箱、大里行政センター分五箱である。

収集後の整理作業は、平成二三年度分の一五九箱、平成二四年度分の一〇三箱の整理が終了して、新調した保存箱で七〇箱、六三箱となった。現在は平成二五年度分の一三四箱の選別、整理、保存作業に着手している。

(文責 水品洋介)

(文責 新井 端・大塚美紗登)

VI 考古資料の整理

昨年度に引き続き、考古専門部会で抽出された考古遺物について既に作成した実測図のトレース作業を行った。

平成二五年度に実測・トレース等の図化を行った遺物は、中廓遺跡の土偶、船木遺跡・下田町遺跡出土のかわらけ、観音堂瓦窯跡出土の古瓦、玉井古銭出土の常滑大甕などの中世遺物である。

版組作業では、弥生時代・古墳時代の版下作成を終了することができ、縄文時代・古代・中世は年度内の作成を予定している。

来年度は資料編「考古」の刊行となるため、写真撮影などの編集作業を進める予定である。

(文責 新井 端・大塚美紗登)

VI 市史編さん業務日誌

【平成二四年度】

1・8	下奈良吉田市右衛門家等文書調査(県立文書館)	2・7	新聞記事調査(県立文書館)	3・4	現代部会新聞記事調査(熊谷図書館)
1・15	埼玉県行政文書・新聞記事調査(県立文書館)	2・7	新聞記事・掛川家文書調査(県立文書館)	3・5	新聞記事調査(県立文書館)
1・17	近世専門部会下奈良吉田市右衛門家文書調査(国文学研究資料館)	2・7	近世専門部会下奈良吉田市右衛門家文書調査(国文学研究資料館)	3・5	本石竹井輝彦家写真借用
1・18	新聞記事調査(県立熊谷図書館)	2・7	近世専門部会下奈良吉田市右衛門家文書調査(国文学研究資料館)	3・6	第二回近世専門部会会議(立正大)
1・19	聖天山の建築専門部会聖天山石造物調査(妻沼聖天山)	2・7	近世専門部会下奈良吉田市右衛門家文書調査(国文学研究資料館)	3・6	大崎)
1・20	第四回現代専門部会会議・調査(妻沼展示館)	2・7	近世専門部会下奈良吉田市右衛門家文書調査(国文学研究資料館)	3・6	玉井個人所蔵文書返却
1・25	埼玉県行政文書・新聞記事調査(県立文書館)	2・8	立正大古文书研究会との共同調査(飯塚誠一郎家・吉田康久家文書・飯塚泰久家 以下の同調査も同じ。13日)	3・6	新堀中村定弘家文書返却
1・28	近世専門部会下奈良吉田市右衛門家文書調査(国文学研究資料館)	2・8	近世専門部会大倉精神文化研究所所蔵文書調査(大倉精神文化研究所)	3・7	新聞記事調査(県立文書館)
1・29	新聞記事調査(県立文書館・県立浦和図書館)	2・14	資料編2「中世専門部会分最終校正(茨城大学、15日)」	3・7	下増田観音寺文書借用
1・31	直実市民大学講師派遣(まくらめいと)	2・14	資料編2「古代専門部会分最終校正(川越)」	3・7	資料編2「最終出張校正(前橋)」
2・2	新聞記事・永井太田掛川家文書(C)日本調査(以下、掛川家文書調査と略す)(県立文書館)	2・17	現代専門部会新聞記事調査(高橋委員、熊谷図書館)	3・8	立正大古文书研究会との共同調査(13日)
2・3	第四回近代専門部会会議(熊谷図書館)	2・18	佛像調査(岡和田大龍寺)	3・9	第三回考古専門部会会議(熊谷図書館)
2・4	別府公民館資料・安楽寺文書返却	2・18	今井鯨井良治氏写真資料返却	3・11	四方寺吉田六左衛門家文書調査(熊谷図書館)
		2・21	今井鯨井良治氏写真資料返却	3・11	今井桁家文書借用
		2・22	埼玉県行政文書・新聞記事調査(県立文書館)	3・15	妻沼経塚出土遺物調査(東京国立博物館)
		2・26	新聞記事・掛川家文書調査(県立文書館)	3・17	第五回近代専門部会会議(熊谷図書館)
		3・2	近世専門部会古文书所在確認調査(3日)	3・17	立正大古文书共同調査(久保島地区、18日)
		3・3	西野宮本晋、家文書借用	3・18	第四回民俗専門部会会議(熊谷図書館)
				3・18	四方寺吉田六左衛門家文書調査(熊谷図書館)

市史編さん室 事務局活動報告

4・10	妻沼逸見敏子家文書借用	5・16	廃棄行政文書の収集(7日)	6・10	四方寺吉田六左衛門家文書調査(熊谷図書館)
4・10	市川市森田ひろみ家資料返却・借用	5・15	市政宅配講座(アくまがや本店)	6・8	中世石造物調査(石原真宗寺ほか)
4・9	別府村史研究会会案	5・13	新聞記事・行政文書等調査(熊谷図書館)	6・6	新聞記事調査(泉立浦和図書館)
4・7	民俗行事調査(弁財殿島神社)	5・12	新聞記事調査(泉立熊谷図書館)	6・4	新聞記事調査(東京大学史料編纂所)
4・3	查(泉立文書館)	5・11	文化会総会、上中条常光院	6・4	刊行物の搬入(東京大学史料編纂所)
【平成二五年度】		5・8	上中条村文書購入	6・3	新聞記事調査(泉立文書館)
4・3	聖天山の建築専門部会古文書調査	5・11	刊行物の展示販売(熊谷市郷土文化会総会、上中条常光院)	6・4	刊行物の搬入(東京大学史料編纂所)
3・31	「資料編」之刊行	5・2	調査(7日)	6・3	妻沼経塚出土遺物調査(東京国立博物館)
3・29	下奈良吉田市右衛門家文書購入	4・27	立正大学古文書研究会との共同調査	5・31	聖天山の建築専門部会歴史担当ミーティング(立正大大崎)
3・29	掛川家文書調査(泉立文書館)	4・26	久保島大光寺及び周辺調査	5・29	仏像調査(出来島普門寺、男沼長勝寺)
3・28	群馬県立文書館所蔵文書調査	4・23	妻沼支店	5・28	岩国藩御手伝普請関係文書CH本調査(泉立文書館)
3・28	市政宅配講座(商工会館)	4・22	明治時代の引札展調査(くましん)	5・27	埼玉県行政文書調査(泉立文書館)
3・27	掛川家文書調査(泉立文書館)	4・21	小沢国平文庫調査(熊谷図書館)	5・26	協議会大会、一橋大学、26日)
3・26	埼玉県行政文書調査(泉立文書館)	4・21	第一回現代専門部会会議・調査(妻沼展示館)	5・25	刊行物の展示販売(歴史学研究協議会大会、一橋大学、26日)
3・25	「熊谷市史研究」第6号刊行	4・18	埼玉県地域資料保存活用連絡協議会(以下埼玉協と略す)理事会(泉立文書館)	5・24	蔵浦和コミュニティセンター)
3・25	四方寺吉田六左衛門家文書調査(熊谷図書館)	4・18	埼玉県地域資料保存活用連絡協議会(以下埼玉協と略す)理事会(泉立文書館)	5・24	埼玉協講演会参加(さいたま市武蔵浦和コミュニティセンター)
3・25	弘法寺)	4・16	道せたな町、今金町、18日)	5・24	本調査(泉立文書館)
3・21	東京博物館)	4・14	吟子没後一〇〇年事業調査(北海道せたな町、今金町、18日)	5・20	岩国藩御手伝普請関係文書CH本調査(泉立文書館)
3・21	石井コレクション文書調査(江戸)	4・14	立正大学近世石造物共同調査(下奈良集福寺)	5・20	岩国藩御手伝普請関係文書CH本調査(泉立文書館)
3・20	掛川家文書調査(泉立文書館)	4・14	新聞記事・行政文書等調査(熊谷図書館)	5・20	新聞記事調査(泉立浦和図書館)
3・20	掛川家文書調査(泉立文書館)	4・14	新聞記事調査(泉立熊谷図書館)	5・19	飯塚杉出慶介家調査
3・20	編集会議(熊谷図書館)	4・11	保存年限満了文書移管作業(大幡小から展示館)	5・18	新聞記事調査(泉立浦和図書館)
3・19	掛川家文書調査(泉立文書館)	4・11	保存年限満了文書移管作業(大幡小から展示館)	5・18	新聞記事調査(泉立浦和図書館)

6・13	老川委員と打合せ(立教大)	7・17	新聞記事調査(県立浦和図書館・ 県立文書館)	8・23	男沼高柳初衛家文書借用
6・15	第一回民俗専門部会会議(商工大会館)	7・19	第一回近世専門部会会議(立正大 大崎)	8・27	近代・現代専門部会学校調査(太 田小・妻沼東中・妻沼西中)
6・16	立正大・近世石造物共同調査(下 奈良集福寺)	7・21	中世石造物調査(下川上浄泉寺)、 会議(妻沼展示館)	8・28	深谷国清寺、正伝院調査
6・17	四方寺吉田六左衛門家文書調査 (熊谷図書館)	7・21	民俗行事調査(上中条不動講)	8・29	聖天山の建築専門部会山口県岩 國徴古館所蔵文書調査(31日)
6・19	別府公民館講座講師派遣(別府公 民館)	7・24	仏像調査(上根大性寺)	9・2	熊谷町役場文書調査(熊谷図書館)
6・20	代代島久輝家文書一部返却	7・27	観音堂瓦窯遺物実測調査(妻沼展 示館)	9・2	民俗編校正編集会議(妻沼展示館)
6・23	第一回考古専門部会会議(熊谷図 書館)	7・28	熊谷市史資料編2刊行記念フォー ラム(商工会館)	9・6	立正大・古文書研究会との共同 調査(11日)
6・29	新聞記事調査(県立文書館)	8・1	新聞記事調査(県立文書館)	9・11	葛和田大島茂家調査(井田育英会)
6・30	中世石造物調査(上中条常光院ほか)	8・4	二ヶ尻嶋野義徳家文書借用・三ヶ 尻板碑調査	9・12	中奈良長慶寺文書返却
7・1	平戸藤井八重子家文書返却	8・6	近代・民俗専門部会中村写真館調査	9・12	くまがや古文書学習・研究会と打 ち合わせ(熊谷図書館)
7・2	第一回妻沼聖天山の建築専門部 会会議(立正大・大崎)	8・6	本石志村忠大家文書返却・借用	9・17	熊谷町役場文書等調査(熊谷図書館)
7・4	埼玉県行政文書調査(県立文書館)	8・8	埼玉県行政文書・新聞記事調査 (県立文書館)	9・17	台風一八号に伴う竜巻被害確認 (妻沼地区ほか)
7・7	第二回展示館・妻沼中央公民館	8・8	近代・現代専門部会学校調査(妻 沼小・長井小・秦小・男沼小)	9・21	刊行物の展示販売(日本古文書 学会大会、関東学院大関内メデイ アセンター)
7・9	上奈良富岡出行家文書借用	8・12	沼小・長井小・秦小・男沼小)	9・21	妻沼展示館収蔵庫燻蒸(23日)
7・15	第二回現代専門部会調査・会議 (妻沼展示館)	8・14	二ヶ尻嶋野義徳家文書借用	9・22	四方寺吉田六左衛門家文書調査 (熊谷図書館)
7・16	ふるさと講座講師派遣(荒川公民館)	8・14	NHK歴史秘話ヒストリア取材 協力	9・24	仏像調査(日向福牛寺)
7・16	聖天山の建築専門部会歴史担当 ミーティング(立正大・大崎)	8・15	立正大・古文書研究会との共同 調査(19日)	9・25	掛川家文書調査(県立文書館)
		8・22	掛川家文書調査(県立文書館)	9・26	埼玉県行政文書・新聞記事調査(県 立文書館)

市史編さん室 事務局活動報告

10・18	妻沼聖天山仁王門修復報告会	12・8	中世石造物調査(久下、市街地区等)	12・9	四方寺吉田六左衛門家文書調査(熊谷図書館)
10・15	熊谷町役場文書等調査(熊谷図書館)	12・5	西野宮本晋一家文書一部返却	12・10	飯塚鈴木進家文書調査報告・借用
10・12	中世石造物調査(上之、久下地区ほか)	12・2	四方寺吉田六左衛門家文書調査(熊谷図書館)	12・10	廃棄行政文書の移動
10・8	池上古宮神社民俗調査	11・28	熊谷市史編さん委員会(商工会館)	12・12	近代・現代専門部会学校調査(成田小・熊谷東小・熊谷中)
10・8	第一回考古専門部会会議(熊谷図書館)	11・30	妻沼聖天堂国宝記念講演会(商工会館)	12・15	第四回近代専門部会会議(熊谷図書館)
10・7	長井寺)	11・25	仏像調査(御正新田浄安寺、押切宝幢寺)	12・16	中世石造物調査(吉岡、大里地区)
10・3	会(八潮市立資料館)	11・23	中世石造物調査(佐谷山福聚院、太井永福寺ほか)	12・18	仏像調査(上中条延命院)
10・2	沼中央公民館、10/10、24、11/7)	11・21	新堀公民館講座講師派遣	12・18	正法寺、上中条延命院)
10・1	箱田齋藤孝一家文書返却・借用	11・20	民俗編掲載写真撮影(県立文書館)	12・19	黒田小源治氏訪問(熊谷図書館)
9・29	第三回近代専門部会会議・調査(熊谷図書館)	11・13	深谷森米恵氏収集資料調査	12・20	いしがい大学講師派遣(妻沼庁舎)
9・28	中世石造物調査(下川上浄泉寺ほか)	11・12	上中条観音寺調査	12・22	古代専門部会会議(大東文化大板橋)
9・27	第二回民俗専門部会会議(熊谷図書館)	11・6	妻沼台田部井一郎家文書借用	12・24	青山根岸友憲家文書借用
9・26	NHK歴史秘話ヒストリア撮影協力	11・3	第三回現代専門部会会議(妻沼展示館)	12・26	民俗編校正会議(妻沼展示館)
		11・24	栃木県足利市荒井映吉家(妻沼)文書借用返却		

※本業務日誌は、事務局が関わったものについてのみ記載しています。